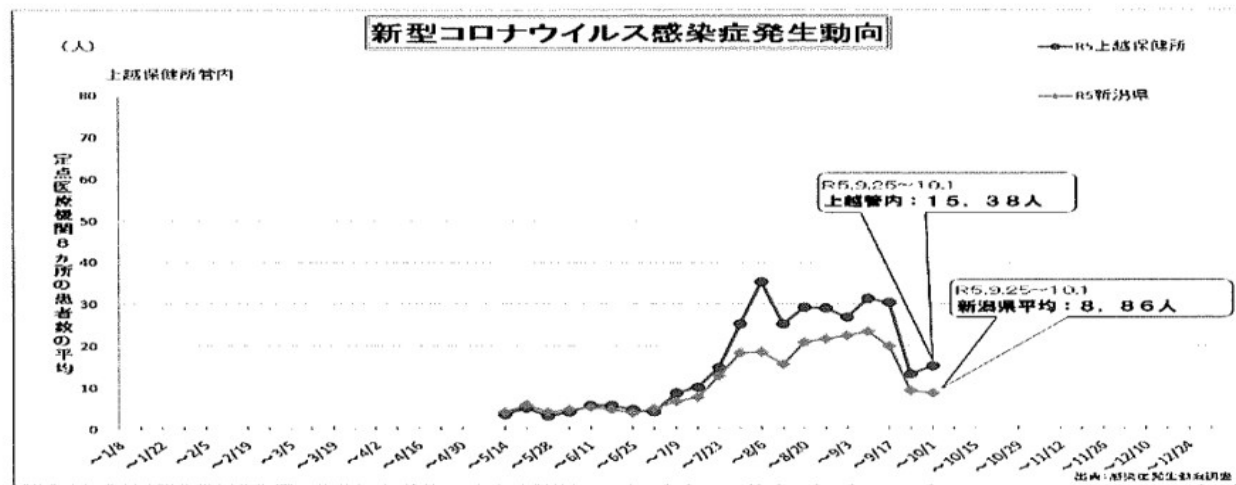
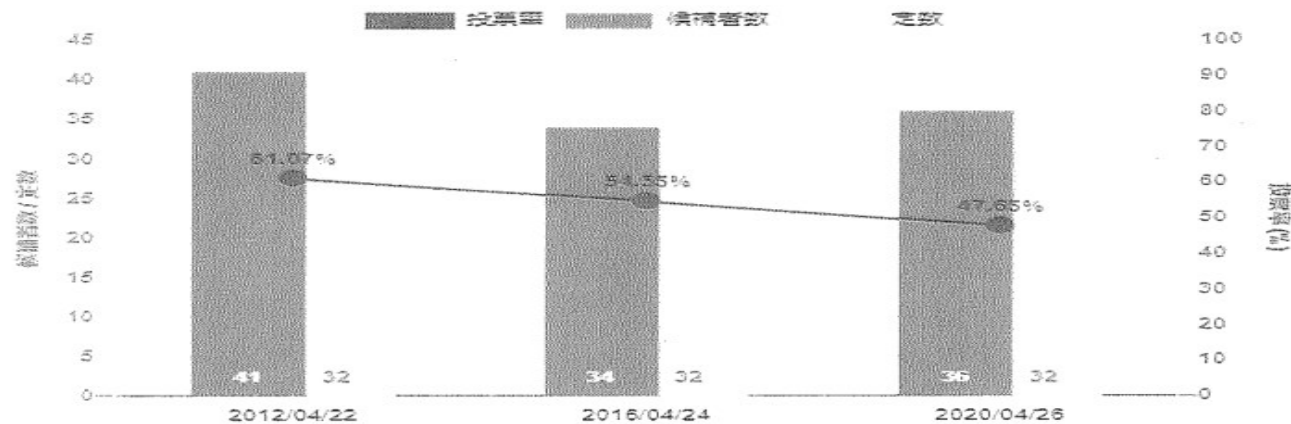


任期満了に伴う市議会議員一般選挙の日程について

上越市選挙管理委員会は、10月4日に定例会を開き、来年4月28日に任期満了を迎える上越市議会議員一般選挙の日程を下記のとおり決定しました。

選挙期日の告示日(立候補届け出の受付)2024年4月14日(日)
 選挙期日(投票日) 2024年4月21日(日)
 開票 会場:リージョンプラザ上越 2024年4月21日(日)
 立候補予定者説明会 会場:春日謙信交流館 2024年3月16日14時～

告示日まであと半年・・・既報の通り、日本共産党上越地区委員会では現職3人を候補者として擁立する予定。



日本共産党上越市議員団ニュース
 No.808 2023年10月15日
 連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

上越保健所管内 新型コロナ感染症感染者定点報告数
 9月25日～10月1日 15・38 (県8・86)
 上越間内での感染者数は県平均に比べて約2倍の感染者発生となっています。

10/6議員定数検討会議開催

10月6日(金)午後2時から第2回「上越市議会議員定数検討会議」が開かれました。

この日は、平成30年8月から令和元年の9月までに14回にわたって行われた「上越市議会の議員定数及び報酬などの在り方検討委員会」、市民との意見交換会、有識者との意見交換会などの内容や意見を踏まえて、今後の検討内容についてどうすべきか各委員の意見交換が行われました。

議長からの諮問を受けて設置された検討会議ですが、議長選時の公約にもなかったこともあり、各会派から代表で出席している検討会議委員からは定数の在り方検討そのものに疑問の意見が多く出されました。

意見の一部を紹介しますと、「今なぜ定数の検討なのか?議長は11月末までに一定の結論を出してほしいとのことだが、性急すぎるのではないか」、「先回まとめられた議員定数、報酬及び政務活動費に関する検討結果について(答申)では、現状維持(32人)が適当とのことだった。定数についての考えはその時とほとんど状況は変わらない」、「合併後、広大な地域、人口の少ない中山間地域では議員を出せない状況になっている。住民からは議員定数を減らすのは反対という声も多く聞かれる」、「議員は地域代表であると同時に全市域に責任

を持つ議員でもある。議員空白になっている地域の声をどうやって議会や市政に反映させるか、議会のありかたを検討していかなければならない」などです。

ただ議長からの諮問が出された以上、「上越市議会基本条例」第27条に次のような定めがあることから、諮問に答える必要があります。

●(議員定数)第27条 議員の定数は別に条例で定める。2・議員定数の改正に当たって、委員会または議員が提案する場合は、本市の財政状況、類似都市との比較、市政の現状と課題及び将来予測などを総合的に勘案するとともに市民の意見を十分に考慮したうえで、提案しなければならない。

検討委員会には、議長からの諮問に対して、「検討し、答申を出す適切な根拠があるかどうか」について判断することが求められます。

検討委員会では、座長から、「まず市民の声をお聞きしたり有識者などからの意見をお聞きする機会を作りたい」との提案があり、このことについては了承しました。

平成元年9月27日付で出された「議員定数についての答申」(あり方検討委員会委員長(当時:江口議員)から議長(当時:武藤議員)へ)

議員定数については、現状維持(32人)とする。また、今後の人口減少や厳しい財政事情から30人にするという意見もあった。

(主な理由)
 議員定数は、市民意見を代弁し市政に反映していく上で重要である。当市の特徴として、中山間地を多く抱えた広大な市域がある中で、市民意見を反映させるには適切な議員定数が必要であるものとする。
 一方で、全国的には、無投票当選や定数割れなど議員のなり手不足問題に対し、様々な検討や取組が行われている中、議会を取り巻く今後の状況を見極める必要があることから、今回の結論は現状維持とする。